

■サロン・ド・IP

“YOU ARE WHAT YOU EAT”

ロナルド・ラボイエ氏(グローバル コマーシャル リアル エステイト ジャパン社、副社長)がコーディネーターとなりラボイエ氏の個人的な友人4人をゲストスピーカーに迎え、『IPEC21』のメインテーマ“健康な環境”について感じたことを自由に発表し、語り合っていた。

ラボイエ氏は人口が密集している日本とオランダの都市環境を比較し、ゆとりのない環境下での移動がいかに疲れるか、等を語った。

次に、スコット・キルボーン氏(RTKL インターナショナル社、日本事務所取締役)は、歌舞伎町や回転寿司を例に、アーバンランドスケープのコンセプトが感じられず、日本(東京?)の環境からは“loss of harmony, loss of definition, loss of spaces, loss of history place and pride, loss of livability (Keen著から)”という言葉を用いてアイデンティティロス(喪失)を警告。さらには増え続けるホームレスのビニルハウスに関心を示し、個々のビニルハウスにはアイデンティティを見て取ることができる、とのキツニー発には複雑な感覚を覚えた。都市環境にモダンと自然のバランスを考え、relationship/movement/plaza/definition/activityを考慮した都市計画をRTKL社の最新のプロジェクトを通して紹介された。

続いて、ヘンドリック・シュウォルツ氏(ELCO TOTO社、日本代表)は“照明は環境のスパイス”という切り口で、ただ単に明るさだけを求める日本に照明(消費電力)のダイエットを提言。蛍光灯の照明に占める割合が欧米では約40%であるのに対して日本では80%と、明るくことが綺麗、と思われている節があり、町中にあふれる過剰照明のダイエットを提唱。

トム・ジョンソン氏は持ち時間がなくなってしまい気の毒でしたが、建築の歴史から始まり歴史を通して日本には独自のアイデンティティがまだ残っているので、それらを環境に実現させる責任がある、と主張。

最後に、ホワン・ゴンザレス氏(スパニッシュ デザイナー、高級専門店ザーラ)は飛び入り参加者で、話す時間も極端に少なくなり、持参したパワーポイントスライドを使って大急ぎでザーラのショッピングインテリア(世界各地)を紹介した。

今回は難しいテーマの上、ゲストの数が多く、話し足りないゲストも見られ、Q&Aの時間や小パーティーの時間も取れない程、真剣なプレゼンテーションがなされたことには感謝感謝でした。

結果として“健康な環境”の奥深さをつくづく感じさせられたセミナーであった。(田中博美)



たい気分では話を聞いたのではない。

しかしながら、パネラー全員がそれでも日本が好きとのこと。パネラーに熱が入り時間が足りなくて話し合いができなかったが個々に話をして見る機会があったらいいなと思います。(今井大八)

10年前のロバート・ベンチャーリ氏の来日講演を思い出した。日本・日本の都市環境についての話のなかで、彼らの取り上げた風景が、繁華街の雑居ビルに取付けられた店舗サインだったり、街に並ぶベンダーマシンだったりと同じ景観だったからである。

ベンチャーリ氏は、混沌とした日本都市をユニーク、ウィットと楽しさ、独自の秩序を作り出していると表現した。また、皮肉なことに、格式、礼儀作法を持つことで知られる日本において、建築家は、他の土地では、許されないような芸術家的ふるまいが許されていると評価していた。当時、日本の経済・商業実績を、都市環境の評価に加えないわけにはいかなかったのだろう。

あれから10年、大不況の今日、これらの景観だけは全く変わっていない。今回のパネリストの方々は、ここが変だよ日本人といったので、我々日本人も首を傾げる日本の都市環境を指摘していた。(岡崎 誠)

■EVENT

イサム・ノグチ デザイン展

20世紀のモダンアートに多大な影響を与えたイサム・ノグチ。没後15年たっても、彼の才能を惜しむ声は一向に消えることはありません。2004年に生誕100周年を迎えますが、それに先だって、この春、東京デザインセンターガレリアホールにて、イサム・ノグチ デザイン展を開催いたします。

ヴィトラ・デザイン・ミュージアムが、国際巡回展として構成した「Noguchi Design展」。この展覧会をインターオフィスが再構成いたします。彼のミニマルアートの凝縮とも言える「美と機能性」をうまく調和させた、彫刻とも称せるプロダクトに焦点をあてました。復刻生産

された家具や、照明器具“あかり”シリーズを中心に、建築家のディエター・ティエールが会場構成を行います。

さらに、昨年度の「グッドデザイン大賞」を受賞した「モエレ沼公園」。東京デザインセンターでは、イサム・ノグチがマスタープランを手がけ、15年がかりで完成に近づくこの作品を、模型やパネル、ビデオを使って紹介いたします。また、慶応大学三田キャンパスの至宝「新萬来舎」の写真展示をいたします。

会 期 4月1日(火)~6日(日)
(会期中無休)
時 間 11:00~19:00
(4月1日のみ16:00まで)
会 場 東京デザインセンターBF
ガレリアホール

主 催 インターオフィス、東京デザインセンター
特別協賛 東京デザインセンターテナント会/アーサー・ブレットジャパン、カーサ・コルティーナ、クリエーションパウマン ジャパン、秀光、ソファ・スタジオ、デザインボックス、東リ、ハーマンミラージャパン、フォアベルク、フラス、モルザ、ユーロ・キッチン・スタジオ (五十音順)
特別協力 ヴィトラ・デザイン・ミュージアム、札幌市環境局緑化推進部、アーキテクトファイブ
会場構成 ディエター・ティエール
入 場 料 無料

■連載 色彩とインテリア ③

ディックカラー&デザイン(株) 森田良子

「色彩とインテリア」3回目の今回は、「トイレ」のカラーコーディネートについてお伝えしましょう。

すっかり春の風が感じられるようになりましたが、今年の冬は例年になく寒かったですね。

この冬、私の家ではトイレを暖かくリフォームしました。といっても床暖房を入れたわけでもなく、床材を張り替えただけです。白に近いベージュの床材からグレイッシュなピンク色にしたところ、今までの寒々としたトイレが少し暖かく感じられるようになりました。

これは色の持つ効果のひとつですが、寒色系と暖色系では体感温度が3℃違うといわれています。

このように私たちは、色を目で見ているだけではなく皮膚でも見て(感じて)います。人間の体は光と色によって筋肉が緊張したり緩和したりするのです。

この現象を脳波や汗の分泌量から示したものをライト・トーンズ値といいます。この値では、人の筋肉が最も弛緩した状態が23、これに近いのがベージュやパステルトーンの低彩度色で、青が24、緑

が28といずれも弛緩させる色です。そして黄色が中間で30、橙が35、赤が42となり、だんだんと興奮・緊張に変わります。

つまり、このような色の持つ緊張・緩和効果を使ってカラーコーディネートすることもできます。

例えば、住宅の中でトイレはリラックスが必要なところですから、空間全体は木目やベージュ色のタイルを使って低彩度にまとめます。そこにアクセントとして植物を置いて緑をプラスしたり、窓際にブルーのボトルを並べて太陽から青い光を取り込んだりすると、より筋肉が緩和したリラックスした状態になれるでしょう。暖色系の赤や黄色は体感温度を上げてくれますが、興奮・緊張する色でもあるので、足元のマットなど低い位置のところに少量取り入れると心地よいメリハリ感が生まれます。

トイレは住宅の中では滞在時間が短く、かつ小さな空間なので、わりあい自由なコーディネートが楽しめる場所です。部屋に置くには個性が強すぎる小物や広い面積では使いにくい高彩度色をアクセントに用いて、思いきり住み手の好みの空間をつくることをオススメしてはいかがでしょうか。

■新入会員紹介

はじめまして。浜裕子です。



英語、日本語講師を経て、ライフワークを模索しフラワー、インテリア、ガーデンデザイン、テーブルセッティングを国内外で学び、現在フラワー&テーブルコーディネーターとして活動しております。花を中心に暮らしの提案をコンセプトに“花生活空間”を主宰。旅館、ホテル、レストラン等で、和の文化、精神を取り入れたコーディネート提案、パーティーの企画を行っている他、オリジナルの花器、食器を製作しています。

花やテーブルトップ、小物あしらいなどで私もお役に立てることがあるのではないかと思います、また、人の輪も広げたく友人の勧めもあり、入会いたしました。

最新の作品は誠文堂新光社“フローリスト”5月号(4月8日発売)で掲載されますので、ご覧いただければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

■TOPICS

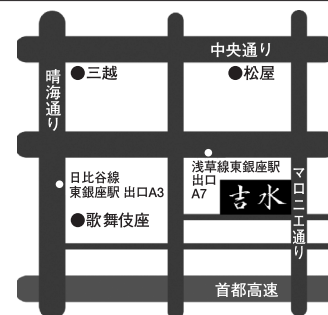
珪藻土ワークショップ IN 銀座吉水 ~珪藻土の魅力を肌で感じてみませんか?~

自然環境の乏しい商業中心地銀座に自然素材にこだわった日本旅館が本年1月10日にオープンしました。

そこで現代住宅に問題を感じている方、自然素材、珪藻土に興味をお持ちの方を対象にワークショップを開催いたします。

主催 (株)サメジマコーポレーション

開催日 3月27日(木)
時間 11:00~14:30
会場 銀座吉水 東京都中央区銀座3-11-3
定員 20名(先着順)
会費 3,000円
食事付(オーガニック料理)
対象者 建築業界に携わる方
服装 ラフな格好でお越し下さい(左官体験有り)
今後も開催予定!!
ワークショップに参加ご希望の方は電話でお申し込み下さい。



お車でのご来場はご遠慮下さい。

●お問合せ・お申込先 (株)サメジマコーポレーション シリックス事業本部 TEL. 044-888-0001 http://www.samejima.co.jp

■TOPICS

アイシェ・バーセル来日講演会

アイシェ・バーセルは、オフィス環境の進化を念頭におき、これまでになかったポール&ビーム構造のシステムファニチャー、Resolve(リゾルブ)をデザイン。リゾルブは2001年にニューヨーク近代美術館(MoMA)のパーマネントコレクションに選定される。

主催 ハーマンミラー・ジャパン(株)
開催日 4月3日(木)
時間 18:30~20:30 (開場18:00)

会場 目黒区民センターホール
入場料 無料
●お申込み ①氏名、②住所、③電話番号、④FAX番号、⑤e-mailアドレス、⑥学校名または会社名に「アイシェ・バーセル講演会参加希望」とご記入のうえ、FAX(03-3444-7580)またはe-mail(contact_japan@hermanmiller.com)にて事前にお申込み下さい。
※プログラムの詳細等は、ハーマンミラー・ジャパンのウェブサイトに掲載されておりますのでご覧下さい。
http://www.hermanmiller.com/japan



交通: ◎目黒駅西口徒歩10分 (JR山手線、東急目黒線、都営三田線、有楽町線) ◎東急バス、田道小学校入口または権之助坂下車徒歩3分 目黒区民センター内

お車でのご来場はご遠慮下さい。

●お問合せ先 ハーマンミラー・ジャパン(株) マーケティング部 TEL. 03-3444-7608

■編集後記

今年度最後のニュースレターとなりました。情報をタイムリーにお伝えしようとしてまいりましたが、まだまだ努力が足りないと感じております。来年度はより一層新鮮な情報をお届けしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

なお、引き続き情報委員会では、「ニュースレター」「インフォメーション」の原稿を募集しておりますので、news@jipat.gr.jpまでお寄せください。